＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2021.1.19
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ボランティアセンターメールマガジン 2021 年第一号です。
卒論を提出されたみなさん、お疲れ様でした。そしてこれから学年末試験期間に入るみなさん、体調に気を付けて頑張って下さい。
今年我が家は年賀状の数がずいぶん減りました。メールや LINE が主流になり、それも時代の流れなのかもしれませんが、やはり手書きの文字をみると嬉しくなるものです。
「手軽さ」「便利さ」「速さ」は「豊かさ」と必ずしもイコールではないと思います。
相手の顔を思い浮かべながら、文字をしたためることは、自分の心も相手のことも豊かにしてくれるような気がします。年賀状の時期はもう過ぎてしまいましたが、コロナ感染拡大で人の行き来も制限されるような状況だからこそ、「手紙」を大切な誰かに送ってみるのはどうでしょう。オンラインとは違った楽しさがそこにあるかもしれません…。

CONTENTS

（１）　ボランティアセンター座談会報告
（２）　陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報
（３）　ボランティアセンターよりお知らせ
（４）　オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介

==========

（１）ボランティアセンター座談会報告

==========

2020 年 12 月 14 日(月)、ボランティアセンターでは平野センター長、中川チャプレン(副センター長)、そして学生 2 名とコミュニティ福祉学部卒業生をお招きして座談会を開催しました。
ボランティアセンター職員も参加し、4 月からのコロナ禍における学生生活や、ボランティアを含む課外活動について、またコロナ禍におけるボランティアセンターの「役割」などについて、それぞれの立場から意見交換し、充実した 2 時間となりました。

4 月からのオンライン授業によって、人との繋がりや、「雑談」の大切さを感じたという意見に、皆一様に大きくうなずいていたのが印象的でした。実感できる関係づくりが with コロナ時代の学生生活や、ボランティア活動にとって柱になってくるのかもしれません。
私たちスタッフにとっても「なぜ大学にボランティアセンターがあるのか」「自分たちが今できることは何なのか？」などを考えるよいきっかけになりました。

==========

（２）陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

==========

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

東日本大震災から間もなく 10 年が経過します。

東日本大震災を受け、これまで多くの立教生が様々な活動を行ってきました。陸前高田サテライト事務局では、改めて東日本大震災という出来事に向き合うために、活動に関わった元立教生に当時の活動や思いを尋ねました。「東日本大震災」や「地域」、「まちづくり」、「復興支援」、「災害」、「防災」、「記憶の継承」等をキーワードとする活動にかかわりたいという立教生の皆さん、既に関わっている皆さん、活動のヒントが隠されているかもしれませんよ！

中村俊輝（なかむらとしき）さん（2018 年社会学部現代文化学科卒業）

Q：どのような活動を行ったのですか？

東日本大震災復興支援団体 Frontiers に所属し、宮城県気仙沼市唐桑半島を活動拠点として、東北に行ってみたい学生を募集し現地での人々や学生同士の対話から震災経験について考える「唐桑ツアー」、原発事故の広域避難者を受け入れた新宿区内の都営団地にて継続的に学習・買い物等の地域支援を行う「Joy Study Project」、社会学部による「東日本大震災 RDY（立教生ができることをやろう）支援プロジェクト」のお手伝い等を行っていました。

Q：参加動機は？

きっかけは入学オリエンテーション内のウェルカムパーティに参加した際に先輩から声をかけて貰ったことです。活動について話を聞き一度、現地へ行って自分の目で見てみたいという思いが強くなり参加することにしました。

Q：活動中の特に印象に残っているエピソードを教えてください。

2014 年秋に初めて唐桑ツアーに参加した際、民宿「つなかん」での深夜の雑談の輪に入れて貰ったことが強く印象に残っています。女将の菅野一代さんや引率の小倉先生（社会学部・教授）など大人の輪の中に加わって話を聞くのは踏み出すのに躊躇しましたが唐桑まで来てやりたい通りの行動が出来なければもったいないと思い、輪に入れてもらいました。

その中で民宿をお手伝いされている佐々木文子さんのお子さんの通われていた高校（※）の 3 月 11 日当日の避難行動の話を聞いて、次の日に高校生が避難した道を実際にたどってみました。この経験もありツアー行程を考える運営も経験したいと考えるようになりました。

地元の方から話を聞くだけでなく、お話の内容を参加している学生にも体感してもらえるようなツアーを組む難しさを感じました。

※同高校は現在、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の一部として保存されています。

Q：東日本大震災に関する活動は現在の自分にどのような影響を与えていますか。

現在は青森県黒石市で働いており東北とは切っても切れない縁があるのかと思ったりもしました。2020 年は新型コロナウイルスの影響で「黒石ねぷたまつり」も中止になり、観光をはじめ地域経済に大きく影響がありました。祭りが中止となるのは戦後初のことで市民の方々の落胆は非常に大きかったです。

そこでねぷた絵師の方と協力して新型コロナウイルス退散の扇ねぷたを作成していただき展示するイベントを行いました。当日は手指の消毒等の対策を行い 300 人以上の方に参加いただき感染者を一人も出すこと無く終えることが出来ました。

Joy Study Project では「さんさん祭り」というイベントも開催していました。始まったきっかけは無くなってしまった地域祭を復活させることや避難してきた方や地域の方が共に楽しめるイベントを増やすことでした。さんさん祭りでも来場した方に喜んでもらえるよう焼きそばやカキ氷などの模擬店やスイカ割り・ビンゴ大会・盆踊りなどのイベントを様々な方と協力して行いました。学生時代はさんさん祭りのような活動も卒業したら携われなくなると思っていましたが、たまたま近いところでその経験を活かすことが出来ています。

今やりたいことがあれば将来に意外と近いところで役に立つこともあるのでまずはトライしてみてほしいです。

活動で出会った陸前高田市の方と

＊お問合せ　立教大学陸前高田サテライト事務局　rrs@rikkyo.ac.jp

＊陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram（@rikkyo_rrs）https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

==========

（3）ボランティアセンターよりお知らせ

==========

【緊急事態宣言発出中のボランティア活動について】

現在、本学のキャンパスが位置する東京都・埼玉県に「緊急事態宣言」が発出されています。今回の緊急事態宣言では、大学などの文教施設に強い制限が設けられているわけではありません。しかし、オンラインを除き、現場に出向いて対面で実施するボランティア活動を含む各種課外活動については、新型コロナウイルスの感染状況が高い水準で継続しているなか、本学としてはまだ従来の活動を認める状況ではないと考えています。

学生ボランティアサークルの課外活動については、現時点では極力対面で実施するボランティア活動を控えるようにしてください。詳細は、学生部からの課外活動ガイドラインを参照してください。ミーティングなどを対面で行う場合は、マスク着用等の感染防止策を徹底してください。

自己責任が求められる個人の活動として、ボランティア活動を行う場合であっても、今本当にその活動が必要なのかどうかを十分に考えてから行動するようにしてください。

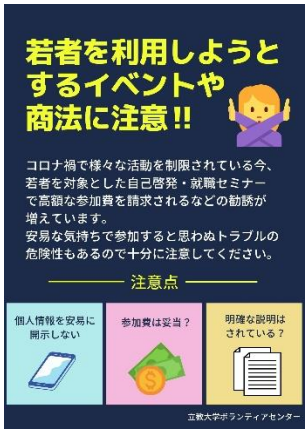
このような緊急時においては、学生の皆さん一人ひとりの心がけが何よりも大切となります。マスク着用やこまめに手指消毒を行うなどの基本的な感染予防策はもちろんのこと、日常での行動についても、感染リスクが高いと思われるものはできる限り回避するよう努めてください。

【要注意！】外部団体からの勧誘について

コロナ禍で海外・国外旅行やボランティア活動などをすることができない若者を対象としたバーチャル観光ツアーなどの案内や勧誘するメールが、大学のサークルやボランティアセンターに届いています。

この種のイベントの中には、内容的に学生に向けて不適切なものがあったり、参加費等について明確な説明がなされていないものもあります。また、個人情報の取得が目的ではないかと思われるようなものもあり、安易な気持ちで参加すると、思わぬトラブルに巻き込まれる危険性もあります。

コロナ禍の中、若者を利用しようとするイベントや商法が発生していますので、十分に注意するとともに、慎重な対応をお願いします。また、万が一、在学生や卒業生などから、イベントやセミナーへの強引な勧誘を受けて困っている場合は、大学にご相談ください。



==========

（4）オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介

==========

【わこらぼフェス・企画運営チームメンバー募集（和光市社会福祉協議会）】

コロナ禍だからこそつながりがほしい。どうにかできないか探っていきたい。和光市サンアゼリア大ホールをコロナ禍における「新しいまちづくりの手法を創出する場」とするため、企画運営スタッフを市民や和光市と関わりを持つ人のなかから広く募集し、アイデアを持ち寄り、一から協働で作り上げるフェスを開催します。ボランティアとして関わってくださる方を募集中！

第１回ワークショップはすでに終了。第２回は２月５日（金）に受付〆切です

【大学生がコロナ禍に地域と関わり成長するメソッド（日本財団学生ボランティアセンター）】

「春から一度もキャンパスへ行っていません。友人に会うのも週に１、２度でストレスがたまっていました。でも、ここではいろんな人から話を聞くことができて新鮮です。」

2020 年 11 月半ばからの１カ月、住まいや通う大学から遠く離れた福島に滞在して、オンラインで大学の授業や実習に参加しつつ、”食”を PR するプロジェクト立案を目指して、さまざまな人に出会い、話し合うなかで、一人ひとりが学びを得ていった学生たちがいました。

「東京にいたら、こういう経験はできません。将来は地域と東京を結ぶ仕事がしたい」

どうやってやったの？どうしたらできるの？仕掛け人と参加した学生のみなさんをゲストに、大学生がコロナ禍に地域と関わり成長するメソッドを考えていきます。

http://gakuvo.jp/event/10973.html
日　時：2021年1月23日(土)17:00～19:00
場　所：オンラインにて
定　員：30名程度
協　力：地域を”学び”の舞台に！ふるさとキャンパス

（編集：ボランティアコーディネーター／茅）

立教大学ボランティアセンター

◎池袋キャンパス
場所：５号館１階
開室時間：月～金　９：00～17：00
土曜日　９：00～12：30
◎新座キャンパス
場所：７号館２階
開室時間：月～金　９：00～17：00

※新型コロナウィルス感染拡大のため６月１日以降は短縮開室しております。
月～金　10:30～15:30
土曜日　10:30～12:30（新座キャンパスは原則として閉室です）
職員・コーディネーターともに交替で出勤・在宅勤務のため、休日授業日は、池袋・新座ともに最小人員で開室、授業休講日は、池袋・新座ともに閉室とさせていただきます。

◎ホームページ
http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html
◎メールアドレス
volunteer@rikkyo.ac.jp
◎TwitterID @rikkyo_volucen
http://twitter.com/rikkyo_volucen/
◎Instagram
https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja
配信停止を希望の場合は以下のGoogle Formを送信してください。
https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7

(C)2019 RVC all rights reserved.